

No. 1 (北海道・稚内市)
古き良きものを守る
～国境の街 稚内の歴史的建造物の保存とまちづくり～



<活動内容>
樺太との交易で栄えた稚内の栄華を伝える建物が、次々と解体されていくことに危機感を持った有志が「古き良きものを守る」という意識のもと平成17年に活動を開始。現在の会員数は35人。
会員自らが稚内の歴史の調査・研究を熱心に行い、さらに、市民の郷土愛醸成を目指し、市の教育委員会とともに「稚内学」という講座を年3回程度開催、その他にも会独自で講演会を行うなど歴史教育に力を入れている。会の活動によって、解体を免れた建物が観光スポットの一つとして一般公開され、成果になっている。

<地域活動団体>
稚内市歴史・まち研究会

No. 2 (岩手県・一関市)
「骨寺村荘園遺跡」等の保全と地域の活性化を目指す活動



<活動内容>
世界遺産「平泉」の関連資産となっている骨寺村荘園遺跡と一関本寺の農村景観を継承するため、平成16年に協議会が発足し様々な活動に取り組んでいる。地区に残される水田を活用した「稲作体験イベント」は、老若男女・地区内外問わず例年400名が参加。田植えや収穫祭が適時開催され、都市・農村間交流が促進されている。平成27年には、市・地権者らが管理協定を締結し、小区画水田が残されている景観の保全と活用強化を図るなど、地区住民が一体となった農村景観保全と継承活動に取り組んでいる。

<地域活動団体>
本寺地区地域づくり推進協議会

No. 3 (宮城県・石巻市)
石巻南浜津波復興祈念公園における市民の伝承活動



<活動内容>
震災直後から被災者自身が活動開始。追悼行事、震災伝承、公園内植樹など、3団体が連携・協力し様々な活動を継続し取組み、祈念公園の下地を築いている。公園整備予定地には団体の活動拠点が設けられ、これまで6万人以上の人が来訪。「がんばろう!石巻」看板が震災直後から設置され、多くの人を励まし続けている。看板製作は石巻の復興・自立にかける人々の思いとともに、現在、地元中学生が継承している。3団体の継続した活動が、将来の公園活用に不可欠となる継続した市民活動の礎となっている。

<地域活動団体>
がんばろう!石巻の会、公益社団法人みらいサポート石巻、特定非営利活動法人こころの森

No. 4 (茨城県・古河市、栃木県・栃木市、小山市、野木町、渡良瀬遊水地の未来に向けて 群馬県・板倉町、埼玉県・加須市)



<活動内容>
渡良瀬遊水地を自然の宝庫として残す為、市民も一定の責任を持つ事を理念に、平成13年3月に設立。「わたらせ未来プロジェクト」を策定し、絶滅危惧種保護、湿地保全再生、ヨシ原有効活用、野鳥飛来、環境学習を軸に「渡良瀬エコミュージアム」構想を実施。2017年ラムサール条約登録後は湿地のグリーンウェイブ活動を行っている。外来種除去も兼ねたクリーン作戦では1回あたり500人～1000人の参加者があり、また足尾との歴史的背景から足尾のドングリを育てて足尾に植樹する活動も行っている。

<地域活動団体>
わたらせ未来基金

No. 5 (新潟県糸魚川市)
100年の景観づくり「枝垂れ桜の咲く里への回り道」



<活動内容>
「住民が誇りを持てる地域に」と、道路沿いの枝垂れ桜の苗木植樹や草刈り等を実施。費用はアルミ缶の回収・売却や、障害木を伐採し販売した売上げを充てている。少しずつ美しい景観が形成され、平成19年には「日本風景街道」に登録された。平成22年からはハイキング、古民家でのカフェや演奏会などのイベントを実施。平成29年には参加者が3,300人に増加し、関東などからも観光客が訪れている。全国第一弾の「道路協力団体」となり、道の駅と連携した周遊バス運行を開始するなど活動の発展も進めている。

<地域活動団体>
特定非営利活動法人 徳合ふるさとの会

No. 6 (静岡県・静岡市)
うしづま水辺の楽校、子供達のたくさんの笑顔、オクシスの魅力アップを目指す



<活動内容>
安倍川に、水遊び場を作り、魚つかみやいかだ乗り、すべり台などで川に親しむうしづま水辺の楽校を運営しており年間2万人が利用している。子供たちが川で安全に楽しく遊べるよう、河原の草刈りや駐車場の運営、ゴミの持ち帰りなどを利用者へ温かく呼びかけており、地域住民の川に対する愛着を高め、地域とともに次世代への継承を目指している。また、年間を通じて楽校敷地、水辺の散歩道及び安倍川堤防の桜並木等の周辺の河川敷の清掃等の維持管理を行っている。このほか環境教育の出前講座、牛妻地区のホタル再生に向けたホタルの養殖なども実施している。

<地域活動団体>
うしづま水辺の楽校世話人会

平成29年度 手づくり郷土賞 【一般部門】 選定案件概要 (16件)

No. 7 かのがわ風のテラス

(静岡県・沼津市)



かのがわ風テラスでの地元催事



沼津自慢フェスタ2017

<活動内容>
沼津市市街地を流れる狩野川の右岸上土町周辺は、市と国で親水空間として利用されている。平成26年より河川許可準則の緩和を機に、**水辺の空間の利活用方法を模索し、協議会方式で、オープンカフェ、パフォーマーによる水辺のステージ、BBQ、地元イベント等を実施し、年間3.8万人が利用している。**狩野川の四季折々の風・川のオープンスペースを感じながら楽しむことが出来る空間となっている。日常的な河川空間の利用促進のため、河川を向いた事業者を増やしていくため、利用しやすい環境づくりを進めていき、**まちなかど河川空間が一体となった取り組みを進めていく。**

<地域活動団体>
沼津上土町周辺狩野川河川空間利用調整協議会

No. 10 住民自治で創る川西のまちづくり

(広島県・三次市)



ほしはら山のがっこう 7泊8日キャンプ



川西郷の駅 パザール

<活動内容>
住民自ら、自治連合会を立ち上げ、全住民に行ったアンケートをもとに「**まめな川西いつわの里づくりビジョン**」を策定し、地域課題の解決に向け様々な取り組みを実施している。また、住民自身で運営する地域密着型の拠点として、**住民85%からの出資により川西郷の駅を運営している。**様々な活動の結果として、川西地区に暮らすことの誇りと生きがいを生み出し、**移住者も増え、雇用も拡大中**である。今後も、過疎地対策等への課題に対して、住民主体による取り組みを継続実施し、川西郷の駅を野菜の集出荷や交通拠点、防災拠点とすることも計画されている。

<地域活動団体>
川西自治連合会

No. 8 須磨ニュータウン周辺の森を整備し、癒しの森(場)づくり

(兵庫県・神戸市)



ノジグクの咲く丘の風景



会員総出によるイベントの準備

<活動内容>
里山時代の森や緑地が数多く残っており、明石海峡の展望が楽しめる自然豊かな横尾地区、友が丘地区において、**間伐材を利用したベンチや散策路の設置、景観を楽しんだりできる癒しの森場づくりを行っている。**遠方からも日常的に**多くの人々が訪れるようになり、子供達の自然体験教室等の活動で利用されるようになった。**
雑草で覆われていた法面に**兵庫県花のノジグクを育成したことにより、平成25年に「こうべ花の名所」に選定され、新聞や地域情報誌に掲載されるようになった。**

<地域活動団体>
よこおみち森もりの会

No. 11 重信川河口域の湿地環境保全～高校生の取り組み～

(愛媛県・松山市、松前町)



重信川クリーン大作戦での清掃活動



自然科学教室でヨシ原再生を説明

<活動内容>
重信川河口のヨシ原再生事業では、**計画づくりから、ヨシの移植、移植後のモニタリングに取組み、フォーラムや自然科学教室等で発表し、自然環境保全の重要性について啓発活動を行っている。**また、洪水時に漂着した**生活ゴミの収集や不法投棄された家電製品の撤去などを行うとともに、地域のNPO等が開催する清掃活動にも積極的に参加している。**地域の誇るシンボルとして**保全することにより、住民の憩いや小中学生等の環境学習、バードウォッチングの場として、年間1万人が訪れる。**

<地域活動団体>
愛媛県立伊予農業高等学校希少植物群保全プロジェクトチーム

No. 9 坂越浦の礎を築いた北前船廻船物語

(兵庫県・赤穂市)



復活した「坂越の嫁入り」



旧坂越浦会所入館者が20万人を達成した瞬間

<活動内容>
かつて「北前船寄港地坂越浦」として繁栄した歴史遺産の宝庫である坂越を「歴史をいかす・風格と潤いのある・落ち着いたまち」になるよう、**地元向けに歴史講座の開催や、「坂越の嫁入り」等の伝統芸能文化の復活、清掃活動、花いっぱい活動、古風な街並みを活かした景観整備、会報の発行等を行っている。**
旧坂越浦会所への観光客は、平成6年は約3千人から平成28年には約2万人に増え、**入館者は20万人を突破した。**また、大阪、東京、近隣からの**定住者が増え、古民家活用にも寄与している。**

<地域活動団体>
坂越のまち並みを創る会

No. 12 水辺空間を活かしたまちづくり

(福岡県・田川市)



竹炭による河川の水質浄化



「風治八幡宮川渡り神幸祭」(番田河原)

<活動内容>
かつて炭都として栄えた**まちの活気を取り戻そうと、「風治八幡宮川渡り神幸祭」を中心としたまちづくりによる地域活性化を目指し、神幸祭を盛り上げるための関係団体との調整、情報発信等の取り組みのみならず、竹炭による河川水質浄化、地域住民、小学生への環境啓発、地域伝統文化勉強会等により地域のイメージアップに活発に取り組んでいる。**多岐に亘る取り組みにより、神幸祭は平成27年度以前の10万人から、平成28年には**23万人もの人が訪れる祭にまで発展しており、地域の活性化に寄与している。**

<地域活動団体>
特定非営利活動法人 風治さつきの会

平成29年度 手づくり郷土賞 【一般部門】 選定案件概要（16件）

No. 13 (熊本県・錦町)

球磨川のほとりに咲くツクシイバラ
～100年後の人々に届けたい～



ツクシイバラ公式発見記念
100周年コンサート



ツクシイバラスケッチ大会

<活動内容>

平成18年3月より「100年後の人々にこのヘリテージローズ自生地を引き継ぎたい」という想いから「ツクシイバラ」の保護活動を始め、5月中旬の開花時期に向け、年明けから清掃活動や除草作業を行い、開花中はコンサート・スケッチ大会、他団体と連携したスポーツイベントを開催し、訪れた1,700人を超える人へ、ツクシイバラの保護活動の啓発を地道に行っている。活動により自生地の町花がツクシイバラに変更され、近くの駅の副名が「ツクシイバラの里」と命名され、自然環境をPRした町づくりにも繋がっている。

<地域活動団体>

球磨川ツクシイバラの会

No. 14 (大分県・津久見市)

河津桜に夢をのせて～浦々をつなぐピンクの禪～



河津桜の植樹



豊後水道河津桜まつり

<活動内容>

平成16年に3つの台風が来襲し、四浦地区は壊滅的な被害を被り、「四浦地区を元気にしたい、住民に希望を与えたい」との思いで、平成17年より河津桜の植樹を続け、延べ4,000人のボランティアの手により4,600本もの植樹や維持管理を継続している。この取組みがきっかけとなり、各地区が連携して津久見市を「河津桜から山桜、ソメイヨシノと長期間桜観光できるまち」として売り出す活動に発展し、今年の豊後水道河津桜まつりには、71,000人を超える観光客が訪れ地域が自信と誇りを取り戻すまでになった。

<地域活動団体>

四浦を考える会

No. 15 (大分県・九重町)

野焼きによる感動の景観づくり



野焼きの風景



小学生への環境学習

<活動内容>

採草・放牧の衰退により失われた草原景観を取り戻そうと、平成9年に当会を設立。地域への熱い思いから重労働で時に危険な野焼きに自主的に取り組んでいる。年間延べ250人の地域住民や団体等の600haの野焼きにより、沿道からの美しい風景を再生させると共に、野焼き文化継承の為、小学生に環境学習を実施。多くの人がドライブ等で来訪するようになる等、地域づくりの「縁の下の力持ち」として観光振興に寄与している。今では野焼きが隣町で復活し、当会の活動が周辺地域に波及している。

<地域活動団体>

飯田高原野焼き実行委員会

No. 16 (沖縄県・名護市)

公園での「まつり」と周辺の「やすらぎ」空間の創出



さがり花植樹の様子



ナイトカヌーの様子

<活動内容>

急激な人口の増加による住民同士のコミュニティ不足の解決や地域を流れる河川環境の保全を目的に、平成22年に「地域振興会」を設立。同年から「屋部川七色にじまつり」を開催、約2,000人が参加する地域交流の場となっている。祭りの主会場となっている公園建設の際には計画段階より参画し、地域ならではの英知による整備とし、整備後は公園の清掃や植樹を行なっている。河川観察会により河川に対する意識向上に貢献している。イベント等を通じて地域住民間の交流は活発になった。

<地域活動団体>

屋部支所管内地域振興会

平成29年度 手づくり郷土賞 【大賞部門】 選定案件概要（3件）

No. 1 (神奈川県・川崎市)
 「多摩川エコミュージアムプランの推進」人をつなげる森と川
 ～二ヶ領せせらぎ館をまちの広場に～



<活動内容>
 「多摩川エコミュージアムプラン」を推進する市民団体として活動。二ヶ領せせらぎ館の管理運営を継続的に受注しており、多摩川の**自然資産と歴史・文化遺産を保全・継承**するため、館を拠点に**誰もが楽しく学び活動するための地域づくり**を進めている。**住民、学校、企業とも連携した毎月の清掃活動、地域に定着した(10年以上多数)様々な事業の企画・運営**や他団体との**協力事業**等活動している。また、**小学生の職場体験、多摩川源流との交流**や**ジャカルタとの国際交流事業**等新たな事業にも**積極的に取り組んでいる**。

<地域活動団体>
 特定非営利活動法人多摩川エコミュージアム

No. 2 (徳島県・徳島市)
 万代中央ふ頭(音楽が紡ぐ港の魅力発信)



<活動内容>
 人気も少なく近寄りづらい雰囲気であった倉庫街を、水辺の魅力を活かし、人が集い、交流が生まれる「港にぎわい空間」に再生しようと、**清掃活動や水産市などの各種集客イベントの開催、まちづくりマスタープランの作成**など様々な取組を行っている。当初は1日限りの開催であった水産市「アクア・チッタフェスタ」は、**平成27年より2日間開催**となり、**平成28年には1万3千人を超える来場者**となっている。地域の環境が快適に保たれた結果、**付近の住民が散策したり、学生が景色を眺めたりする姿も多く見られるようになった**。

<地域活動団体>
 特定非営利活動法人アクア・チッタ

No. 3 (大分県・大分市)
 海と街とのやさしい出会い
 ～やすらぎの空間を求めて～“かんたん”みなとまちづくり



<活動内容>
 当団体は、不法投棄で荒廃したみなとを**地域住民が憩える場として再生**させるため、行政による海辺の公園整備や上屋活用等に関する様々な**アイデアを提案**し、平成23年には**みなと一体がウッドデッキと芝生の公園**に生まれ変わり、**市民の日常的な憩いの場へと変貌**を遂げた。その後も、“みなと”、“食”、“植栽”など**地域と一体となった手づくりイベント**や**美観活動**などを展開し、前回受賞時に7店舗しかなかった**商業施設が29店舗**に増加するなど、**魅力ある水辺空間として定着**するとともに、**広がりを見せている**。

<地域活動団体>
 特定非営利活動法人大分ウォーターフロント研究会